

会議記録（要旨）

委員会の名称	第4回 広陵町の公民館建替及び文化芸術の振興のあり方検討委員会
開催日時	令和2年11月29日（日） 10:00～12:00
開催場所	広陵町総合保健福祉会館（さわやかホール）4階大会議室
出席委員の氏名及び人数	中川幾郎委員長、大藪慎二副委員長 生嶋純子委員、石井保雄委員、良佳信委員、坂口忠雄委員、 寺井保委員、竹井三男委員、松井宏之委員、松本茂章委員、 宿久和美委員 計11人
欠席委員の氏名及び人数	0人
出席職員の職・氏名又は人数	<事務局> 町長部局 企画部長 奥田育裕、企画政策課長 尾崎充康、芦原徹 <事務局> 事務局 事務局長 池端徳隆、生涯学習スポーツ課長 増田晴彦、同課長補佐 池島清隆 <運営支援> 特定非営利活動法人 NPO 政策研究所 直田春夫、田中逸郎、谷内博史
公開・非公開の別	公開
非公開の理由	-
傍聴人の人数	4人
議題又は協議事項	1 開会 2 委員長あいさつ 3 広陵町の文化芸術の現状と課題について 4 広陵町の文化芸術の方向性について 5 まとめ 6 閉会
会議の記録（要旨）	
議事／発言者等	発言内容等
事務局	○開会 ・ただいまから、第4回広陵町の公民館建替及び文化芸術の振興のあり方検討委員会を開会します。 ○資料の確認（本日配布資料と事前送付資料） ・本日配布資料 次第、(仮称)自治基本条例逐条解説案 第9章 文化のまちづくり ・事前送付資料 広陵町中央公民館育成クラブ経年推移、行政（町）の視点からの文化芸術のあり方に関する課題、前回アンケートとりまとめ、文化芸術活動の広がりを考える・広陵町とその周辺の文化芸術活動、文化芸術の（振興の）方向性イメージ、【参考資料】文化

	芸術の基本的考え方
2 委員長あいさつ	
委員長	○今日は、広陵町の文化芸術の現状と課題についての共通認識を持っていただき、それにもとづいて今後の広陵町の文化芸術の方向性についての意見を聞きたい。文化芸術基本法の主旨も踏まえながら検討していきたい。
3 広陵町の文化芸術の現状と課題	
委員長 事務局	○まず、「広陵町の文化芸術の現状と課題」について説明してください。 ○パワーポイント資料により説明があった。 (詳細は配布資料参照)
委員長	○説明ありがとうございました。では、順次発言をお願いします。
委員	○住民への情報伝達（行政から町民へ、活動団体から一般町民へ）が不足しているという印象を持っている。 ○課題については、「公民館建替の方針が不明確」ということに尽きる。現状をくわしく聞かせていただいで判断していきたい。
委員	○「課題」であげられていることは広陵町における基本となる認識だと思う。 ○「文化芸術のあり方に関する政策の欠如」とあるが、総合計画に「文化の薫り高いまちづくり」と一定の言及はあるが具体的な方針は見えない。自治基本条例に「文化のまちづくり」が取り上げられているのが今後の立脚点だろう。文化芸術は直ぐに成果のあがるものではなく、将来の人づくり、まちづくりの基礎となるべきものとして、議論を広げ、深めていく必要がある。 ○アウトリーチに関しても、公民館育成クラブと年度始めに学校公演をはじめ、方向性を示してはどうか。また、町内に専門家（アーティスト）がいると思うので、これらをもっと活用・連携してはどうか。
委員	○これまで文化協会や公民館育成クラブの各団体が積極的に活動して広陵町の文化を支えてきたが、町としてもそれに任せきってきたという反省もある。しかし、現時点ではさまざまな問題も出て来ている。 ○公民館建替もその一つだが、町長が昨年9月議会で答弁したように建替の方向で進めている。 ○周辺自治体の事例を見ても、文化施設、放課後学童保育施設、防災拠点等の複合施設が多くなっているが、施設は今後30年、40年後も使うものなので、そういった視点で文化を中心とした複合施設ということも考え合わせ検討していただきたい。 ○活動団体にも、文化協会と育成クラブがあるが、これらをまとめていただいで文化芸術に取り組んでいただければと思っている。

委員	<p>○公民館の何が問題ということだが、耐震性や狭隘さなどがあることは承知しており、そのため十分な文化活動ができないということで建替の声が出て来ていると認識している。</p> <p>○単独施設という考え方もあるが、たとえば歴史資料館含めた複合施設も考えられる。そういう方向で検討していただければありがたい。</p>
委員	<p>○町民の課題としてあげられている「高齢化による担い手不足」が急速に進行し、直面する課題だ。指導者も高齢化が進み、指導が困難になりつつある。</p> <p>○文化芸術の活性化を目指すなら、担い手を増やす方策が重要で、人(活動する側と受け手の双方)がいなくなると施設も活用されなくなる。</p>
委員	<p>○今の公民館活動は、行政の指導もあるが、どちらかと言えば住民のパワーでつくられてきた。活動する中で、隣の部屋の音が漏れるとかエレベーターがないとか、いろいろな問題が出て来ているので、建替運動を進めてきた。</p> <p>○町がもっとリーダーシップを取ってきておれば発表会等も活性化したと思うが、町民に任せっきりにしてきた実態がある。広陵町が住みやすい町と評価されるのは先輩方の努力の成果だと思う。行政の怠慢もあるので、しっかり頑張ってもらいたい。</p> <p>○行政には、若い人が集まってくるようなきっかけとなる場をつくってほしい。</p>
副委員長	<p>○課題はこの通りだと思うが、ただ美辞麗句を並べるだけではなく、具体的な行動方針がない。庁内連携を図りながら、住民と行政が情報交換を進めながら手を携えあって具体的方策を進めていくことが大事だ。</p> <p>○これらの課題を踏まえて、今後の広陵町の文化芸術の方向を考えていきたい。</p>
委員	<p>○いろいろな活動があっても、知らない町民が多いのではないか。活動する曜日、時間帯、人数等がわかれば、参加しようとする町民もあるのではないか。一般の町民が参加したくなるような情報がほしい。</p>
委員	<p>○課題にあげられている「公民館建替の方針が不明確」というのはどういうことなのか事務局にお伺いしたい。建替については、町長が昨年9月の議会で、「概ね5年を目途に基本方針を決定し、その後できるだけ早い時期の建替を目指す。」と公言されておられるので。</p>
事務局	<p>○おっしゃるように「概ね5年を目途に基本方針を決定し、その後できるだけ早い時期の建替を目指す。」という議会答弁があったが、これは町としての方針である。ここに書いてあるのは、その内容とか複合化とか場所等に関して今後の方針が未定という意味である。建替をしないと</p>

委員長	<p>いうことではない。</p> <p>○建替をするという方針が不明確なのではなく、内容が今のところは未定であるということ。たとえば、単独施設ではなく史料館を併設したら、と言う意見もあった。</p> <p>○担い手を増やしていくことが課題。高齢化が進む中で、若手の参加を如何にして進めるか、というソフト面の検討が必要だということだ。これは公民館がどのような機能を持つのか、ということに関わる。</p> <p>○広陵町には、生涯学習に関する基本方針はあるのか。あれば、公民館の役割として必要課題に対応した講座を開催したりすることができる。これを明らかにしていただきたい。これは町としてどのような人材を育てようとしているのかを示すリーダーシップの問題でもある。</p> <p>○市内の横の連携不足について。たとえばコロナ禍にあってどのように生活を守っていけばいいのか、最新の情報や知恵を示した生涯学習講座の中で町民と一緒に考えていくことも必要ではないか。そういった社会課題に対して能動的に働きかける公民館活動が必要なのではないか。それであればたとえば保健福祉部局が公民館との連携をしたいという声が上がってきても不思議ではない。</p> <p>○情報が知られていないという点について。育成クラブの活動にせよ、公民館直営の講座にせよ、もっと町民に伝わり、共有されていかなければいけない。これらについて、行政の考えはいかがか。</p>
事務局	<p>○生涯学習・社会教育に関しても、理念等の明文化されたものはない。いままでの公民館は団体の活動にずっと委ねてきたのは確かで、行政としての姿勢、方向性、コーディネート力が欠けていた。</p> <p>○今回の検討委員会が動き出す中で、これを契機に生涯学習のあり方を再構築する動きが出て来ている。現在では社会教育委員も不在であり、本委員会の進行と合わせ委員を擁立することを考えている。</p>
委員長	<p>○図書館運営協議会はあるか。</p>
事務局	<p>○これは法的には必須のものではないが、広陵町の図書館の規模からして置くのが適当であるが、現在は設置されていない。図書館運営協議会を含めた、社会教育委員を持ちたいと考えている。</p>
委員長	<p>○図書館運営協議会（館長の諮問機関）は法的には必置ではないが、図書館行政への住民の参加という意味では非常に重要な機関だ。公民館運営審議会とともに、これらを置かれるよう本委員会として提案したい。文化芸術基本計画が策定されると同時に設置されるとよいのではないか。</p> <p>○担い手がいないということについては、生涯学習に関する基本計画がないことによることも大きいのではないか。公民館は、生涯学習の拠点</p>

	<p>施設であるべきなのに、拠点施設としての能動性を担保できていないと思われる。住民の知的装備とか政策力向上をはかる拠点であるべきなので、公民館講座等積極的に取り組んでいくことが望まれ、それを担保するような文化芸術基本計画が作られるべきである。また、その計画を担保する（実施できる）公民館とならなければいけない。</p> <p>○公民館をどこにどう建てるかの前に、どんな機能を備えるのかを議論すべきではないか。もともとは、公民館から派生して文化ホールができ、図書館ができ、史料館ができてきたという流れがある。すべては公民館から発しているとは私は考えている。</p>
委員	<p>○育成クラブに関する情報は、町の広報紙の5月号に年に一度だけではあるが掲載されている。もっと載せて欲しいと要望はしているが。</p> <p>○町民にはあまり読まれていないようだが。</p>
事務局	<p>○育成クラブの募集は毎年5月号の広報紙に掲載している。掲載回数を増やしたいがスペースの問題もあり、今は返事できない。町のホームページにも掲載しているので、ご覧いただきたい。</p>
委員	<p>○資料1「中央公民館育成クラブ経年推移」があったが、育成クラブがどういう活動をしているのかとか、何年間活動を続けているか等の情報が知りたい。</p>
副委員長	<p>○育成クラブの活動内容を短い文章ではあるが紹介した資料は出ている。ただ、その資料はPR不足なのか、町民が注意して見ていないのかわからないが、町民にあまり届いていない。これは、半分は住民自身の意識の問題もあると思われる。意識のない人にこちらを向いていただけるようにする方策が必要だ。</p>
委員長	<p>○広報紙をきちんと読んでくれる住民は10%もないのが現状だ。住民の関心の問題が大きい。</p>
4 広陵町の文化芸術の方向性について	
委員長	<p>○では、「広陵町の文化芸術の方向性」について説明してください。</p>
事務局	<p>○パワーポイント資料により説明があった。</p> <p>(詳細は配布資料参照)</p>
委員長	<p>○説明ありがとうございました。</p> <p>○資料4-4「文化芸術の（振興の）方向性イメージ」が一番具体的で重要な所かと思えます。これについて順次意見を賜ります。</p>
委員	<p>○河合町のまほろばホールで、昨年まで15回の音楽祭を開催している。昨年は、関西フィルの弦楽奏者、フルート奏者、コーラス、尺八等によるコンサートを実施した。その経験からいうと、文化芸術を行うには、</p>

	<p>演奏者や享受する環境を整えるためにお金が必要だということだ。</p> <p>○広陵町の（仮称）自治基本条例に文化が取り上げられているが、文化芸術への財政的な支援が必要なのではないか。また、県事業のミュージックフェスト等を広陵町に誘致するなどの手立てが必要なのではないか。アマチュアだけでなく、プロの力も借りて、子どもに文化芸術に触れてもらうために学校と連携する事も考えてもいいのではないか。</p> <p>○公民館がプラットフォームとなるべきだが、これまでのお任せをやめて、公民館としてこう考えているといった方向性を団体と協議しながら打ち出していく、年度計画が必要だ。</p>
委員	<p>○これまで町としての方針がなかったことに驚いているが、今後方向を打ち出していく、まちづくりにつながっていくことはうれしいことだ。</p>
委員	<p>○小学校などで文化を体験できる機会があることは知っている。高齢者福祉施設等で、ダンスやお琴をやっていただいて、みなさんすごく感動したり、体を動かすきっかけとなっているので、こういう場を広げていくことが大切だ。</p>
委員	<p>○ここに方向性が書かれているのはありがたいが、誰がやるのか、という問題がある。高齢化が進む中で、新たな地域や文化活動のリーダーを見つけ、育てていく必要があるが、それは町の仕事ではないか。文化芸術活動が多様に推進し活性化すれば、リーダーは必ず現れてくる。これは公民館がやっていくのか。</p>
事務局	<p>○文化芸術の振興は、まずは公民館（教育委員会）が主体的に進めていくものであるが、町のまちづくり全体に係わることなので、将来的には首長部局も関わっていくこともあると考えている。</p>
委員	<p>○最近では、町民にはやりたいことだけをやるという風潮が見られるが、人の世話をする人は減っているように思う。人づくりは地味な仕事だが、公民館によりしくお願いしたい。</p>
委員	<p>○方向性をどう具体化するかが問題だ。子どもにとっての文化はゲームがメインになっているのかも知れない。絵画クラブでも親は子どもを預けているという認識のようだ。文化活動のイメージを変えていかないといけないのではないか。</p> <p>○介護予防で体操を教えているが、参加者がだんだん減っている。6,000人の登録があるが実際に来ている人は300人程度だ。公民館でも同じような課題があるのではないか。</p>
委員	<p>○文化協会も育成クラブも高齢者が多く、若い層を巻き込む方策を考えていきたい。</p>
委員	<p>○方向性にあげられた活動をしていくためには場所が必要となるが、公</p>

委員	<p>民館を建替え、大きな施設をつくるのは財政的にも無理があり、みんなが満足できるものにするのも難しい。一方、広陵町には各地区に「公民館」があるが、あまり利用されていない。この地区の公民館を活用できる体制をつくってはどうか。町民にとっても身近な場所で活動できるというメリットもあるし、参加の敷居も低くなるのではないかな。</p> <p>○既存の施設を活用する方向を考えてもいいのではないかな。</p> <p>○中央公民館は多世代にわたって稼働率を上げていく必要がある。公民館講座から育成クラブが立ち上がって活動を続けてきたという経緯がある。その意味で公民館と育成クラブは一体のものであるので、引き続き育成クラブや文化協会を支援していきたい。稼働率が高くなることは活動する人が増えるということだ。活動する人がいなければ公民館建替も意味がなくなる。他自治体では稼働率が低下し、閉鎖するところも出てきていると聞いている。</p>
委員	<p>○体系がないままの建替論議には違和感がある。生涯学習計画がないとか社会教育委員がいないとか。</p> <p>○公民館長を公募して一般住民の方がなっており、その方は企画など熱心に取り組む、成果をあげている自治体もある。公民館、図書館などの運営に住民が参加したり、企画などに住民が関わっていくことで、住民も元気が出て、まちの活性化につながっている。</p> <p>○合併した岐阜県N市では、中央図書館、分館、そして旧町村単位の公民館に図書室がありさらに学校に図書室があり、これらを図書館職員がネットワークされて、活性化している。住民も自分たちの図書館という意識を持ち、本棚などを自分たちで整備することまでやっている。</p> <p>○要は住民が参加、参画することが大切だということだ。中央公民館が「ハブ」、「たまり場」となることが大切だ。</p>
副委員長	<p>○広陵町に三十数年前に引っ越してきた頃、広陵町を周遊するイベント（見て歩く会）があり、地域の歴史や町並みを学ぶことができた。また、広陵古文化会が50周年を記念して町内の寺院や神社などを調査した『ふる里の文化財をたずねて』を刊行されており、こういうものを手にして地元をめぐる沢山の発見がある。すばらしい本なので、ぜひPRしていただきたい。</p> <p>○広陵町には畿央大学があって、町が仲介して学生のボランティア、サークルと連携すれば、いいアイデアも出てくると思われる。</p> <p>○公民館の講座も多様なテーマで開催されている。もっとPRしていく必要がある。公民館運営審議会でも議論し、年間のテーマを立てて、連続講座などを企画してはどうか。</p> <p>○町内に、総合的な文化施設が必要。そこが、みんなが集まってきやすい「たまり場」になったり、「プラットフォーム」として機能したら町は活性化する。そういう「拠点」となる公民館が必要だ。</p>

5 まとめ

委員長

○プロを活用することが弱いのではないかという意見について。これに関しては、広陵町の文化政策におけるプロフェッショナルの位置づけを再検討する必要がある。文化芸術表現の指導者であるのか、鑑賞にあたっての作品供給側なのか、整理する必要がある。

○計画がないことに驚かれた方もあるが、計画がないことは致命傷だから、文化政策の基本計画をつくりましょう。その中に生涯学習も含めれば改めて生涯学習基本計画はつくらなくてもいいかもしれない。ただし、ユネスコ等で示されている生涯学習の基本理念をきちんと押さえた文化芸術計画とする必要がある。

○福祉施設との連携について。これは非常に大切なことで、生涯学習が単なる余裕のある人の余暇活動であってはならない。障がい者、外国人、経済的に余裕のない人、働き盛りの勤労者、子育て中の方等にとっても利用しやすい、利用できる生涯学習・公民館でなければならない。こういった方が、自立でき、社会に再挑戦できるための知識、技術・スキルを学ぶのも生涯学習の大きな目的である。そのための適切な講座等を用意することが重要だ。この社会包摂の視点はまさしく福祉施設等との連携を通して実現していくことができる。

○「方向性」であげられた事項を誰がやるのか、ということは非常に重要な指摘だ。文化芸術振興計画をつくったときに、それぞれの項目毎に担う主体を明確にしておく必要がある。たとえば、舞鶴市の文化振興基本計画では、市行政、市民、文化事業団、協働で行うものに分けて実施主体を明確に示している。こういった先進事例から学ぶ必要がある。委員会で、適切な時期に先行する文化振興計画の事例を示すのもよい。こういった計画を実現するために必要な施設はどうあるべきなのか、を考えてハードの検討を行うべきだ。

○まず、全分野を対象とするという意味で「○（マル）の条件」と私は呼んでいるが、町民の生活に係る課題に対応するための講座等が公民館で供給できているのか、ということ。たとえば就業に関しては、簿記や会社の作り方、IT技術等の講座が用意されているか。このように、あらゆる社会課題に関して学習機会が用意されているかどうかチェックしていく必要がある。趣味・教養だけではいけない。

○次に、全年代対象という意味で「△（サンカク）の条件」と呼んでいるが、全世代に対応した生涯学習機会があるかということ。欠けている年代があればそこに問題があると認識しなければいけない。たとえば、子どもが出入りしない公民館であれば先が知れている、若い世代が集まって来ないから。若い世代が来ないのはその世代を開拓していないということだ。中高年の方だけで占められている公民館は、公民館行政がなかったと言わざるを得ない。

○地区公民館の活用を提起されたが、これは大きな資源が未活用だったということ。地区公民館がその本来の役割を果たしているのか。単なる集会所としてたまに使われるだけでは大変もったいない。これは、地区

	<p>でしっかり議論して、公共的な役割を果たすように検討していただきたい。地区公民館を公民館＝公共施設とするならば、中央公民館と地区公民館の役割を計画に位置づけていく必要がある。</p> <p>○体系的に考えていかなければならない、という指摘については、もっと住民の参画と協働が必要ということだろう。文化施設・公民館等に、住民との共同経営を導入すべきとだということ。住民もリスクを負担しながら経営に参加し、成果をあげていくという発想が必要。参画と協働を実践していくと、施設も生き返り、活性化している例も沢山ある。</p> <p>○「たまり場」になる施設にしたいという、魅力あるキーワードが出された。住民が集まってきて、楽しい時間を共有できるような魅力的な施設をつくるためにはどうしたらいいのか、という重要な問題提起だ。ハードの前に、そういう魅力ある施設とするためのソフトの議論が必要だ。</p> <p>○ソフトの次に、人材について考えないといけないが、これは「誰がやるのか」「誰が主役なのか」という課題ともつながっており、すべてを行政にお任せするのではなく、町民として参加・参画できる部分に主体的に入って行くことも必要ではないか。</p> <p>○誰が担うのか、どういう人材が必要なのか、人材を育てるにはどうしたらいいのか等を踏まえて、事業としてはどういうものがよいか、ソフトとしては何が考えられるのか、を掘り下げたい。その上ではじめてどんな施設がいいのかが見えてくる。</p> <p>○次回以降、人材とソフトについて議論していきたい。</p> <p>○付け加えれば、町民、地域、学校などとアーティストをつなぐ、コーディネーター役が必要。コーディネートできる人材を行政に求めるのは難しいので、むしろ地域からそういう役割を担える人材が生まれ、育てていくことが望まれる。人口が少ない町村では、外部から専門能力を持った人材を招聘することも考えられる。大都市では、そういう役割をアートNPOに委託しているところもある（横浜市等）。</p>
委員	<p>○尺八と琴の演奏（宮城道雄の春の海）が教科書にも出てくるということで、町内の三小学校に出前教室を行うアウトリーチ活動を行っている。</p> <p>○町内には、日本舞踊に情熱を持っている人があるが、次世代に伝えていきたいと希望して、学校とのつながりを探っているができていない。教育委員会が仲介するなどの支援をしていただければありがたい。</p>
委員長	<p>○文化協会や育成クラブに、学校にアウトリーチ活動ができる人材がいるので、ぜひ活用してほしい、というご意見だ。</p>
委員	<p>○町民が文化芸術について意見を出し合える場、機会が必要と感じた。</p> <p>○公民館には茶室がある。こういう特色ある設備も活かす方策を考えていくことも必要と思う。また、公民館の舞台技術スタッフを育成し、参画してもらおう企画をしてはどうか。こういうことも含めて、公民館がど</p>

<p>委員長</p>	<p>うあるべきかの論議を深めていってほしい。</p> <p>○今日は重要な論点が沢山出た。これを共有した上で、次回以降は、いかなる人材が必要なのか、そのための制度、事業には何が必要なのか、について議論していきたい。</p> <p>○そこでは、社会教育の世界でいう、要求課題だけを議論するだけでなく、社会的課題に対応した必要課題についても考えて欲しい。必要課題とは、たとえば声をあげにくい人にとって何が必要か、を考える事だ。要求課題に対応するのは公民館本来の役割ではない。必要課題に対応して、それに取り組む豊かな市民（町民）層を生み出していくことに本来の役割はある。そこに立脚して考えていきたい。</p> <p>○アートマネジメントについてももう少し語っておきたい。アートマネジメントとは、社会と芸術をつなぐ、芸術家と社会を出会わせる仕事であり、専門的なトレーニングを受ける必要がある。たとえば子どもとアートを出会わせる場合、児童心理学を始め、劇場論、舞台設備、音響、照明等についても学んでいる必要がある。</p> <p>○そういうアートコーディネーターを育成するトレーニングコースをホールが持つことが望ましいが、それができない場合は外部からプロを招き助けてもらうこともある。ただ、外部人材だと、地域の人材ストックとはならない。地域で人材を持つなら、住民の参画と協働を通して育成していくしかない。住民が責任を持って動き、行政もそれを支援していく、という流れ。そういうことも議論できればいい。</p>
<p>6 閉会</p>	
<p>副委員長</p>	<p>○今日は有意義な議論がなされ、ありがとうございました。</p> <p>○まだまだ思っていることを言い表せないこともあるかも知れないが、学びながら考え、考えながら学び、次回以降もいい意見が出ることを期待している。ありがとうございました。</p>
<p>事務連絡</p>	
<p>事務局</p>	<p>それでは、事務局の方から連絡事項をお伝えさせていただきます。次回以降の委員会のスケジュールにつきましては、委員長、副委員長と相談の上決定させていただきます。事務局と致しましては、次回の開催は1月頃と考えていますので、委員の皆様のご出席をお願いします。</p>

以上